

2024年8月1日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

子供時代のソーシャルキャピタルが 成人期のウェルビーイングの鍵

—幼児期の社会的つながりの重要性—

【発表のポイント】

- ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）とは、信頼や助け合いができる社会の中の人と人との繋がりを表します。
- 幼少期に、両親以外にも豊かなソーシャルキャピタル（親以外の信頼ができる人との繋がり）を持っていた人は、成人後の主観的幸福感が高い、ということを示しました。
- 幼少期の親と過ごした時間の長さは、成人期の認知タスクの成績と関連がある可能性を示唆しました。
- 親との時間に加えて、親以外にも信頼できる人と繋がりを持つことが、成人期のウェルビーイングにつながる可能性があることを示しました。

【概要】

親子関係の質や親の関与が、子どもの社会的、感情的、および認知的発達に与える影響は指摘されてきましたが、家族に限定されない、子ども時代のソーシャルキャピタル（SC）との関係性については十分に研究されていませんでした。東北大学大学院情報科学研究科（兼）加齢医学研究所の細田千尋准教授のグループは、幼少期の親と過ごした時間、及び、ソーシャルキャピタルと、成人期のウェルビーイングの関連性を調べるため、大学生 292 名を対象に、幼少期の父親・母親・親以外の信頼できる大人との関わりと、現在の幸福度及び認知機能について調査を行いました。

その結果、子ども時代の SC と成人期の主観的幸福感（ポジティブ感情）には有意な正の相関があることが明らかになりました。また子供時代の母親の関与は成人期の認知機能（Raven's advanced progressive matrix による知能）と関連していることが示唆されました。本成果は、社会的、感情的、および認知的発達の過程の中で、親に加えて、親以外の信頼ができる人との繋がりを持っていることの重要性を示すものです。

本研究成果は7月25日、心理学分野の専門誌 Frontiers in Psychology にてオンライン公開されました。

【詳細な説明】

研究の背景

ソーシャルキャピタル（SC）とは、人と人の信頼関係、相互扶助のネットワークを指し、個人および社会全体のウェルビーイングや健康に寄与することが多くの研究で示されています。

一方で、子ども時代のソーシャルキャピタルが長期的に主観的ウェルビーイングに与える影響については、まだ十分に解明されていません。これまでの研究は、親子関係や養育態度が子供の社会的、感情的、および認知的発達に与える影響を探るものが中心であり、子ども時代の信頼できる人との繋がりの重要性はあまり注目されていませんでした。

今回の取り組み

東北大学大学院情報科学研究科の細田千尋准教授のグループは、大学生 292 名を対象に、子ども時代のソーシャルキャピタル（SC）および親と過ごした時間が、成人期の主観的ウェルビーイングと認知機能に与える影響を調査しました。参加者は幼少期の社会的交流と親と過ごした時間については、振り返って回答しました。

研究の結果、子ども時代に両親と関わった時間の長さは、成人期のウェルビーイングと関連が見られませんでした。一方で、子ども時代の SC と成人期の主観的ウェルビーイング（ポジティブ感情）に有意な正の相関があることが明らかになりました。また、子ども時代に母親と関わった時間は、成人期の認知機能の高さ(rave と関連している可能性が示されました。

子ども時代には、親子の時間だけでなく、親以外の人との繋がりを持つことが、その発達に重要である可能性があります。

今後の展開

本研究の成果は、幼少期に親との関わりと親以外との関わりの両方が、成人するまでの長期的にわたって情緒や認知的発達に影響を及ぼす可能性を示唆しました。親と過ごす時間だけでなく、親以外の人との信頼を伴う繋がりを築く機会を増やすことの重要性を示唆しました。幼少期におけるソーシャルキャピタルの重要性を認識し、子供たちが多様な社会的ネットワークを構築できる環境を提供すること、また、親子関係の質を高めるための支援策を強化することなど、子育てにおける環境構築やそのための政策立案などに有用な情報として貢献できることが期待されます。

なお本研究は、対象者が特定の年に大学生だった人に限られていること、幼少期の経験を振り返って回答しているという限界があります。今後はこれらの問題を解決できる長期観察で検証することが望まれます。

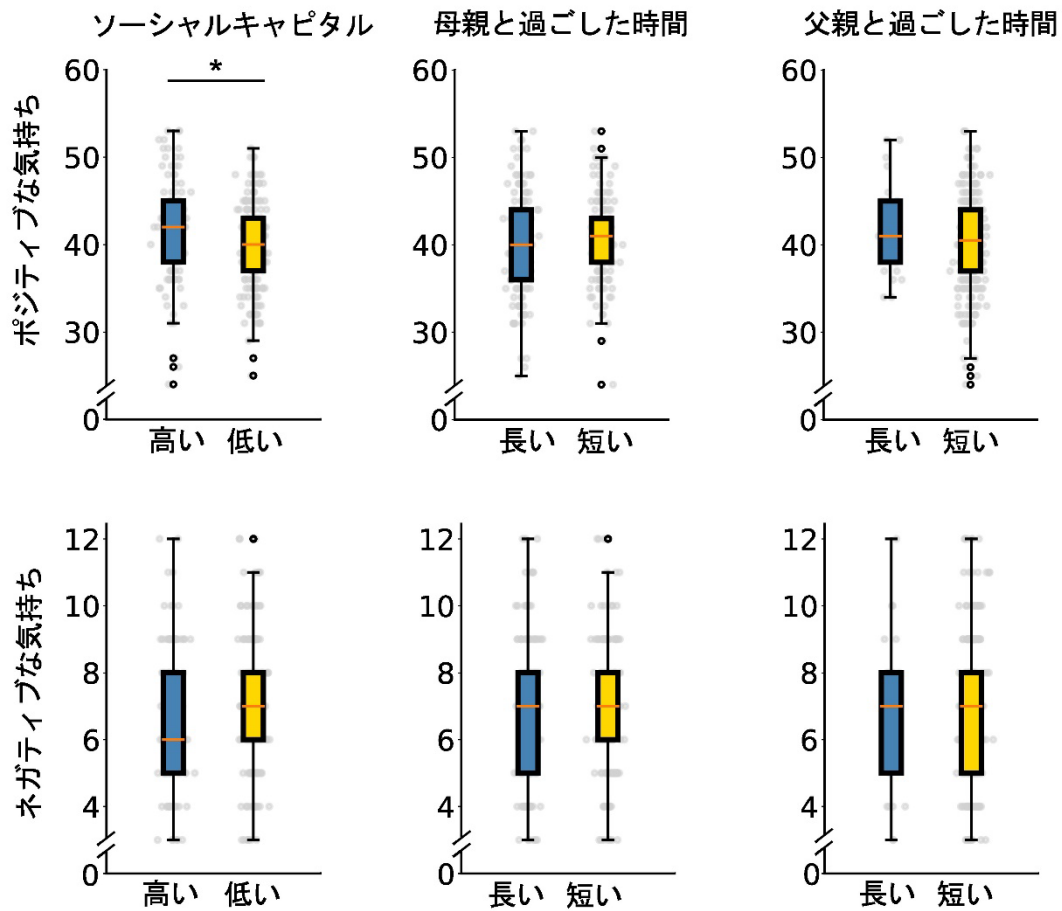


図 1. 幼少期におけるソーシャルキャピタル、母親と過ごした時間、および父親と過ごした時間別の成人期におけるウェルビーイング得点の違い

図 1.左列のパネルは、幼少期のソーシャルキャピタル得点が高いグループと低いグループの成人期におけるウェルビーイング得点（「ポジティブな気持ち」と「ネガティブな気持ち」）の比較を示しています。青色のプロットはソーシャルキャピタル得点が高いグループを、黄色のプロットはソーシャルキャピタル得点が高いグループを示しています。アスタリスク (*) は、ウェルビーイング得点に統計的な差が認められたことを示しています。このプロットでは、ソーシャルキャピタルが低いグループと比較して、高いグループにおいて、ポジティブな気持ちの得点が高いことが示されています。

中央列と右列のパネルは、幼少期に母親または父親と過ごした時間が長いグループと短いグループの成人期におけるウェルビーイング得点の比較を示しています。青色のプロットは親と過ごした時間が長かったグループを、黄色のプロットは親と過ごした時間が短かったグループを示しています。これらでは、グループ間のウェルビーイング得点に統計的な差は認められませんでした。

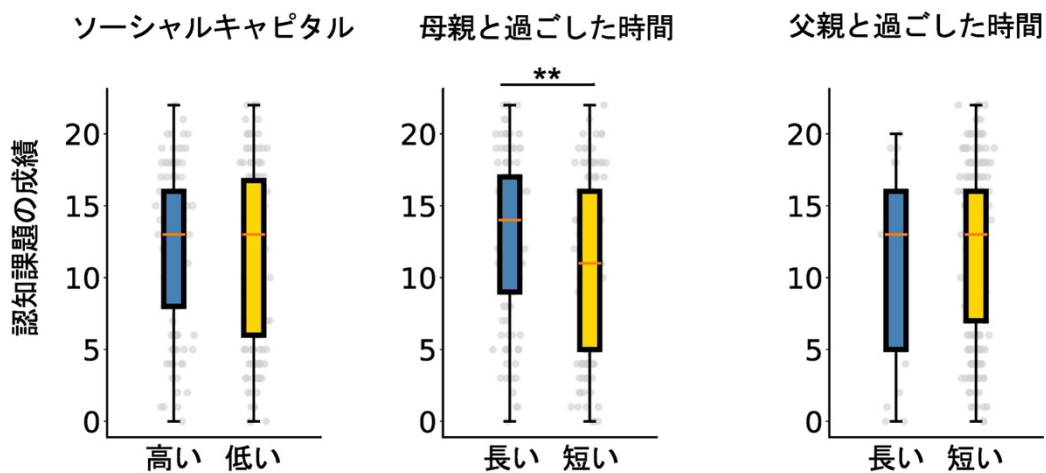


図 2. 幼少期のソーシャルキャピタル、母親と過ごした時間、および父親と過ごした時間別の認知課題成績の比較

図 2 左のプロットにあるように、ソーシャルキャピタル得点が高いグループ（青色）と低いグループ（黄色）の間での認知課題成績に差はありませんでした。中央と右のプロットは、それぞれ母親と過ごした時間が長かったグループ（青色）と短かったグループ（黄色）、父親と過ごした時間が長かったグループ（青色）と短かったグループ（黄色）の、認知課題成績です。今回の調査では、母親と過ごした時間においてのみ、統計的な差が認められました。

【謝辞】

本研究は、JST ムーンショットムーンショット目標 9「2050 年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現」プログラムから採択された「Child Care Commons：わたしたちの子育てを実現する代替親族のシステム要件の構築」[助成番号 JPMJMS229C]、JST 未来創造事業[助成番号 JPMJMI21J6]、JST 創発支援事業[助成番号 JPMJFR206N]の一部支援を受けて実施されました。

【用語説明】

注1. ソーシャルキャピタルとは、個人や集団が持つ社会的ネットワーク、信頼関係、および相互扶助の仕組みを指します。この概念は、コミュニティや社会全体の機能向上や個人の幸福感、健康、経済的成果に寄与することが知られています（Putnam, 2000）。

【論文情報】

タイトル：The Importance of Childhood Social Capitals in The Future Well-Being of Children

著者：細田千尋、張雲鳳、田淵六郎、渡邊淳司、丸谷和史、細川研知、松橋拓努

*責任著者：東北大学大学院情報科学研究科 准教授 細田千尋

掲載誌：Frontiers in Psychology

DOI: 10.3389/fpsyg.2024.1389269

URL:

https://www.frontiersin.org/journals/psychology/articles/10.3389/fpsyg.2024.1389269/full?utm_source=Email_to_authors_&utm_medium=Email&utm_content=T1_11.5e1_author&utm_campaign=Email_publication&field&journalName=Frontiers_in_Psychology&id=1389269

【問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院情報科学研究科

東北大学加齢医学研究所

准教授 細田千尋

TEL: 022-717-8507

Email:

To: chihiro.hosoda.d8@tohoku.ac.jp

contact@hosodachihirrolab.org

（報道に関すること）

東北大学大学院情報科学研究科

広報室

鹿野絵里

TEL: 022-795-4529

Email: koho@is.tohoku.ac.jp